

# 行橋の23歳映像作家 地元で短編撮影

## 来月福岡で新作を上映

行橋市矢留の映像作家、橋剛史さん(23)の作品が、5月に開催された韓国の釜山国際短編映画祭のオープニング上映に抜てきされるなど活躍ぶりが注目されている。橋さんは「世界を樂しませる映画監督になりたい」と意気込んでいる。市立今川小時代に映画「バック・トゥ・ザ・フューチャー」を見たのがきっかけだった。京都高校卒業後、東京の映画専門学校に

行橋市矢留の映像作家、橋剛史さん(23)の作品が、5月に開催された韓国の釜山国際短編映画祭のオープニング上映に抜てきされるなど活躍ぶりが注目されている。橋さんは「世界を樂しませる映画監督になりたい」と意気込んでいる。市立今川小時代に映画「バック・トゥ・ザ・フューチャー」を見たのがきっかけだった。京都高校卒業後、東京の映画専門学校に

専門学校時代に特別賞受賞

## 「実績重ね、大作も」

進学した。在学中から短編を撮影。卒業前の09年2月には朝日放送(大阪市)主催のショートムービーCMグランプリに応募した。転校する女子高校生が男子に菓子のハイチュウを贈るといふ筋書きで、タイトルもズバリ「青春ハイチュウ」。

審査員特別賞を受賞した。卒業後に帰郷。地元の劇団やバンドのプロモーション映像などを制作している。昨秋、自主制作の作品を集めた福岡インディペンデ

ンティで、福岡インディペンデント映画祭(福岡市、9月10、12日)での上映が予定されている。ジユルさんは「青春ハイチュウを見て温かさや懐かしさを感じ、橋さんの作品に出たいと思った」と話した。

橋さんは「短編で実績を重ね、いつか『バック・トゥー』のようなエンターテインメント大作を、ロケ地に恵まれた行橋を舞台に完成させたい」と抱負を語った。



映画監督を目指し、「ダイエットのうた」を撮影する橋さん(左)とジユルさん